

「相馬のやきもの・大堀焼」を生かした授業例

1. 単元名 5年 「わたしたちの生活と工業生産」「伝統的な技術を生かした工業」

2. 小単元の目標

- (1)相馬大堀焼にたずさわる人々は、自然条件を生かし、長い歴史の中で伝統を守りながらも新しい工夫を加え、相馬大堀焼の仕事を継続させてきたことを理解することができる。
- (2)地図や資料、また、見学や焼き物体験などを通して、焼き物ができるまでの様子や自然条件とのつながり、伝統を守る努力などについて説明できる。

3. 指導計画（総時数8時間）

- (1)焼き物をつくる……………2時間
- (2)相馬大堀焼ができるまで……………1時間（本時）
- (3)相馬大堀焼の町（浪江町）の様子……………1時間
- (4)土とほのおの焼き物……………1時間
- (5)伝統を受け継ぐ……………1時間
- (6)今焼き物は、古くて新しい工業……………1時間
- (7)日本各地で作られる伝統的な工業製品……………1時間

4. 本時のねらい

- 土づくりから窯出しまでの工程の中に、伝統的な技術を生かしている様子を調べ、説明図などにまとめることができる。
 - ①相馬大堀焼を例に挙げ、伝統工業製品ができあがるまでの様子を調べる計画を立て、ノートにまとめることができる。
 - ②製造工程のパネル（博物館所蔵）を見て、どの工程か話し合うことができる。
 - ③それぞれの工程で、どんな苦労や工夫があるのか話し合うことができる。
 - ④製造工程のVTR（博物館所蔵）を見て、相馬大堀焼ができあがるまでの様子を確認することができる。
 - ⑤学習したことをもとに、相馬大堀焼ができあがるまでの様子を説明図などを用い、自分なりにまとめることができる。

5. 博物館資料について

- 「相馬大堀焼」について

相馬大堀焼の発祥やその特徴などがパネル、所蔵の品から知ることができる。また、様々な作品を見ることができ、相馬大堀焼のすばらしさに触れることができる。
- 「製造工程」について

相馬大堀焼がどのように作られているかを予想させ、パネルでどの工程かを考えさせ、VTRで確かめさせることができる。